

執筆者紹介

大沼義彦（おおぬま よしひこ）日本体育大学大学院体育学研究科修士課程修了。日本女子大学教授。スポーツ社会学、オリンピック・レガシー論。『現代スポーツの社会学——課題と共生への道のり』（共訳、南窓社、二〇一三年）『サッカーのある風景——場と開発、人と移動の社会学』（共編、晃洋書房、二〇一九年）

富田幸祐（とみた こうすけ）一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。中京大学任期制講師。スポーツ史。『ガネフォ60周年記念誌・ガネフォ 新興国競技大会 水球チーム』（共著、ガネフォ会、二〇一三年）、『スポーツがつくったアジア——筋肉のキリスト教の世界的拡張と創造される近代アジア』（共訳、一色出版、二〇一七年）

尾川翔大（おがわ しょうた）日本体育大学大学院体育科学研究科博士課程修了。博士（体育科学）。岐阜薬科大学助教。スポーツ史。『政党内閣期のスポーツ政策——文部省人事と「運動競技」の政策史』（創文企画、二〇一三年）

松浪稔（まつなみ みのる）日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（体育科学）。東海大学教授。スポーツ史、スポーツ文化論。『現代スポーツ批評——スポーツの「あたりまえ」を問い直す』（共編、叢文社、二〇一〇年）、『身体の近代化——スポーツ史からみた国家・メディア・身体』（叢文社、二〇一〇年）。

野上玲子（のがみ れいこ）日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了。博士（体育科学）。江戸川大学講師。スポーツ哲学、オリンピック論。『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』（共著、みらい、二〇一八年）、『オリンピックと全体主義』（『オリンピック・クスポーツ文化研究』第六号、二〇一二年）

石岡丈昇（いしおか 丈のり）筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程単位取得退学。博士（学術）。日本大学教授。社会学、身体文化論。『ローカルボクサーと貧困世界——マニラのボクシングジムにみる身体文化【増補新装版】』（世界思想社、二〇一四年）、『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』（共著、有斐閣、二〇一六年）